

## 2008 年度 通常総会 議案書

2008 年 5 月 24 日 / 岡山県民主会館

1. 開会あいさつ

2. 議長選出

3. 議事録署名人について

4. 会長あいさつ

5. 議事

第 1 号議案 2007 年度事業活動ならびに 2007 年度決算、監査報告

第 2 号議案 2008 年度事業計画ならびに収支予算案

6. 質疑・採択

7. 閉会あいさつ

# 第1号議案 2007年度事業活動ならびに2007年度決算、監査報告

## 2007年度の事業活動報告

NPO特定非営利活動法人・地域人権みんなの会は、個人会員20名と団体賛助会員3団体の加盟のもとで2001年12月15日に結成総会を開催しました。

その後、岡山県の審査を受けたのちの2002年4月16日に認証を受け、5月1日に法務局への登記を完了して正式に発足しました。2002年6月には、みんなの会として、岡山県民主会館一階へ独立した事務所を開設すると共に、専用の電話・FAX（086-254-9555）を設置しました。

現在の会員数は個人会員41名、賛助団体会員6団体となっています。

人権にかかわる学習会活動は、07年9月22日、岡山市勤労者福祉センターで、「認知症の人の人権と介護の視点」学習懇談会を開催。20の事業所、家族の方、市民など58名が参加しました。また、07年12月3日、岡山国際交流センター「教育と人権について考える学習集会」を開催し、教育関係者など72名が参加しました。

06年7月1日より岡山市西崎本町に開設した地域密着型の小規模多機能型居宅介護事業所「みんなの家 ななくさ」運営の着実な進展に向けて07年度も大いに力をあげてきました。登録定員を22名から25名に増員して、利用登録者は、08年3月末で20名となっています。

人権問題相談会も定期的な開催はできませんでしたが、当会の役員が個別に相談にあたった件数は数十件をこえています。新たな事業研究は、介護事業所を基調にしてめざす方向性の論議に終始しています。

理事会は、一年間を通じて4回開催しました。会報は4回発行しました。

### 1、会員現勢について

2008年5月1日現在、個人会員41名、団体会員6団体となりました。

昨年度からみれば、2名が退会し、1名の方が入会されました。

### 2、理事会の開催について

この一年間に理事会は、4回開催しました。

第1回理事会	2007年6月2日	岡山県民主会館
第2回拡大理事会	2007年9月14日	同 上
第3回理事会	2007年11月22日	同 上
第4回理事会	2008年3月17日	同 上

### 3、小規模多機能型居宅介護事業所「みんなの家 ななくさ」のとりくみ

(1) 07年度収支について 【別紙参照】

①総売り上げ	35,663,897円	
②総経費	28,103,740円	
③営業利益	7,550,157円	
④当期純利益	7,296,108円	繰越利益剰余金 ▲6,878,984円
⑤繰越利益剰余金	417,124円	

(2) 利用者登録数

月	07/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	08/1月	2月	3月
人数	12	12	13	13	16	16	17	17	18	18	19	20

### (3) 職員について

- ①管理者 渡邊美佳さん07年7月末退職、8月より池田トモ子さんに
- ②離職ならびに就任 渡邊(7月)、竹原民(08年3月)
- ③職員数 08年3月 13名
- ④正規職員 住宅慎通事務長、渡邊美佳管理者(7月まで)、池田トモ子管理者(8月より)
- ⑤パート職員 フルパート 住宅俊、杉本、田中(6月より)、赤松(08年3月より)の各氏  
短時間パート 竹原、藤澤、小林、河原、稲本、滝本、岡崎の各氏  
(08年5月現在、能勢、井戸口さん入職、15人)

### (4) 事業所活動

- ①運営推進委員会の開催 5回
- ②家族会、施設行事、たよりの発行
- ③事業所関係の連絡会 岡山県小規模多機能型居宅介護事業所連絡会
- ④職員研修
- ⑤登録数定員の拡大 登録定員25名、通い13名、宿泊5名に変更(08年3月より)
- ⑥岡山県民主医療機関連合会への加盟(08年4月より)

## 4、人権問題の学習会

### (1) 「認知症の人の人権と介護の視点」学習懇談会 9月22日/勤労者福祉センター

- ①講演 認知症の人の人権と介護の視点 石倉康次・立命館大学教授
- ②介護現場からの報告  
氏平三穂子さん(ヘルパーステーション・レインボー所長)  
住宅慎通さん(小規模多機能型居宅介護事業所 みんなの家ななくさ事務長)
- ③参加者 20事業所、家族、市民、マスコミなど58人が参加
- ④岡山市からの補助金 179,016円

### (2) 「教育と人権について考える学習集会」 12月3日/国際交流センター

- ①講演 人権としての教育 堀尾輝久・東京大学名誉教授
- ②シンポ 教育の現状と人権について  
三宅良子、田中 博、吉野一正の各先生
- ③参加者 72名
- ④県からの補助金 500,000円

## 5、会報「NPO・地域人権だより」の発行について

2007年度の会報は、4回発行しました。印刷部数は毎回100部です。

- 第23号、2007年06月15日発行
- 第24号、2007年08月01日発行
- 第25号、2007年10月05日発行
- 第26号、2008年01月15日発行

## 6、その他

【別紙参照】

【別紙参照】

## 第2号議案 2008 年度事業計画ならびに収支予算案

### 2008 年度事業計画

2008 年度の活動は以下を重点においてとりくみます。

#### 1、小規模多機能型居宅介護事業所 みんなの家ななくさ の活動の強化を

##### (1) 地域密着型、多機能型の利点を生かしたとりくみ

ななくさには、石井中学校区近隣の方を中心に、旭川東にあたる操山、三勲、東山学区、また西北に当たる高松学区の在宅の方も利用されています。これは、通い、訪問、宿泊という多機能型を評価していただき、在宅支援事業所、医療系協関係などから紹介してくれる頻度も高まっていることの反映でもあります。また、三門小学区からは、地域人権運動みかどの会からも利用につながる相談もよせられ、事業所と地域を結ぶひとつのパイプになっています。

より利用者と家族に信頼され、福祉を中心に地域住民から頼られる存在をめざします。

##### (2) 08 年度の経営

25 名の登録定員に近づける努力を展開します。08 年度の子算規模については、まず月平均 350 万円を設定します。利用者の要介護度によって介護報酬額に大きな差があります。計画的な登録のとりくみが必要です。

##### (3) 地域に信頼される施設の運営を

運営推進会議の構成メンバーに、小・中学校長、小学校 P T A 会長、町内会長、利用者の家族などの方が参画していただいています。この方たちの力も発揮していただいて、地域密着型の施設として介護事業を中心に発展させていきます。

また、ボランティアの方々も参加していただけるよう具体化をはかります。

##### (4) 職員の働きがいがある職場作り

事業所の運営の中心は職員の方々です。職員がいきいきと仕事ができる条件作りが利用者にとって大切な施設につながります。地域密着型で単独型という施設の運営はやりやすい面となじみにならなければ持ち味が出せない面もあります。職員が元気よく働けること条件作りには、

非常勤の役員や会員の側面的な援助も必要となります。また、専門職としての役割がさらに発揮できるよう、研修機会の提供、将来の事業所作りへの参画などを重視します。

当会の役員と職員の交流・話し合う場を確立しながら、民主的運営のもと互いに成長が保障される職場をめざします。

今年度から、さらに一人、合わせて3人の職員が正規職員として任務に当たります。

#### (5) 報酬をうけとる役員について

報酬を受け取る役員として、中島純男理事を充てます。報酬は年額 480 万円、その期間は 08 年 6 月から 09 年 5 月とします。中島理事は、連関する団体から支給される給与は 08 年 5 月をもって返上・打ち切ります。NPO・地域人権みんなの会、小規模多機能型居宅介護事業所「みんなの家ななくさ」の発展と、新たな事業展開を企画し実施する任務にあたります。

#### (6) 新たな事業のとりくみの研究について

①みんなの家ななくさの施設の拡張充実について、事業計画、投資額、利用者の便益と確保などを考慮して、検討します。

②みんなの家ななくさの事業所活動を教訓に、場所、機能、対象、組織的影響力などを勘案しながら、新たな介護施設の設置に向けて検討します。

### 2、県民を対象にした学習懇談会などの開催について

#### (2) いじめ問題に関するシンポジウムの開催について

07 年度から、岡山県が人権啓発パートナーシップ事業補助金制度を創設しました。08 年度は 20 団体を対象に補助金が助成されます。この制度を活用して、8 月 30 日に、「一親と教師はいじめにどう向き合うかーいじめ問題に関するシンポジウム」を開催します。

今日の切実な悩みになっている、いじめ問題を通して人権としての教育のあり方を追究するうえで県民的な集会とします。

以下、計画案です。

①集会名 「一親と教師はいじめにどう向き合うかーいじめ問題に関するシンポジウム」

②日時 8 月 30 日(土)午後 1 時 30 分から 4 時分

③場所 きらめきプラザ(岡山市南方 2 丁目 13-1)401 会議室 120 名収容

④内容 シンポジウム

- ・ 岩間一雄 (岡山大学名誉教授) 「いじめの社会的背景」
- ・ 徳方宏二 (フリースペースあかね代表) 「いじめをうけた子と向き合って」
- ・ 森口章 (沢田の杖塾主宰) 「いじめに教師はどう向き合ったか」
- ・ 難波一夫 (子育て・教育なんでも相談ネット 世話人代表) 「いじめに親はどう向き合うか」

⑤参加費 無料

⑥その他 (県人権啓発パートナーシップ補助金事業に申請中)

#### (2) 福祉と介護にかかわる学習会の計画

08 年 4 月より後期高齢者医療制度が導入されるなど医療、福祉の切捨てがすすみ、また諸物価の高騰などの影響により、県民とりわけ弱者といわれる人々にとって大きな負担が強いられています。

また、介護事業所にとっても、現制度はもちろん、新たな見直しは経営上たくさんの課題を投げかけています。これらの現状を踏まえ、福祉と介護にかかわる学習会を開催します。

対象について、県内の小規模多機能型居宅介護事業所、デイサービス施設などの関係者にもひ

ろげ、ななくさ、との交流などにも結びつくように取り組みます。

集会名は「高齢者の人権と福祉・介護の視点」、開催は12月、規模は100人程度とし、事業所での課題を交流し、課題と要求をまとめていく流れを作り出します。

### 3、広報・宣伝活動

今日、政府は国民の管理・統制を念頭に様々な施策の制定を画しています。その流れのなかで人権概念を差別問題に矮小化し、国民の人権理解の欠如が差別の要因であるという立場をとっています。その影響を受けて多くの自治体は住民の意識を「人権」の名で管理統制する「人権教育・人権啓発」、あるいは道徳的教化を中心にしたものになりがちです。

憲法に規定された基本的人権を地域社会に生かす運動こそが真の「人権」を擁護し伸長するものであり、そのことを通じて「意識」の問題の解決にもつながります。

憲法9条の改廃を中心に改悪を画策する動向は、アメリカの人権をかえりみない戦争行為に荷担することが主な狙いといわれていますが、国民を管理・統制するなかで本来の人権の概念まで変えさせようとする流れになっています。

地域住民・市民の観点から人権を考える観点での広報・宣伝活動は極めて大切になっています。

「地域人権だより」を適宜発行します。会員内外からの投稿もいただき内容を充実させます。

ななくさのブログ NPO・地域人権みんなの会のコーナーも設けています。これらの活用をはかります。

### 4、会員の拡大

諸活動を積極的に展開させるなかで会員拡大をめざします。NPOの意義と当会の目的を多くの人に理解をえる独自のとりくみも必要です。

学習活動、事業活動などに会員外の人々の参加、協力を訴え、そのとりくみを通じて入会を働きかけます。また、専門家の方々に直接入会の呼び掛け活動を展開します。

個人会費は、月額500円ですが、70歳以上の方、障害者の方などは5分の一に減額できることを適用します。

### 5、運営について

①理事会は2ヶ月に一度開催することをめざします。

②「NPO・地域人権だより」は年6回程度発行します。

③ななくさの運営にかかわるとりくみや諸会議に積極的に参画します。

④福祉にかかわる新たな事業活動についての検討を行います。

2008年度収支予算案

【別紙参照】